

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
321	2006/11/22	60703	三菱ウェルファーマ	肺サーファクタント	サーファクタント	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
322	2006/11/22	60704	ベネシス	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体含有人免疫グロブリンG	人血液	米国	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高かった。
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Forelに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイバーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のバルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、バルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイパー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG 分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデブスフィルターでの濾過が有効とされている。
323	2006/11/22	60705	ベネシス	乾燥人フィブリノゲン	凝固性たん白質	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												バルボウイル ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
324	2006/11/22	60706	ベネシス	トロンピン	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
325	2006/11/22	60707	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固区因子	血液凝固第Ⅲ区因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neuro 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												パルボウイル ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
326	2006/11/22	60708	ベネシス	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
327	2006/11/22	60709	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMIは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060623.1743	WHOは、H5N1トリインフルエンザウイルスの限定的なヒト-ヒト伝播が5月にインドネシアの家族で起こったと発表した。しかし、疾病の拡大に大きな変化を及ぼすものではないとしている。ウイルスの変異は見られたが、ヒトの間での伝播を容易にするものではなかった。
												HTLV	J Virol 2006; 80: 7427-7438	HTLV3型は最近同定された新規のウイルスである。HTLV-3感染者由来の非培養末梢血リンパ球を用いたPCR法に基づくゲノム解析により、初めて完全なHTLV-3配列を明らかにした。HTLV-3(2026N)ゲノムは8917bpで、HTLV-1とHTLV-2とは共に約62%、STLV-3とは87-92%の配列同一性を共有した。系統発生分析ではSTLV-3に属し、霊長類起源であることが示唆された。
328	2006/11/22	60710	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060601.1525 ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないとして述べている。
329	2006/11/22	60711	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	バクトトリプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060601.1525 ProMED-mail 20060607.1588	60710に同じ
330	2006/11/22	60712	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	パングレアチン	ブタ臓臓	アメリカ、カナダ	製造工程	有	無	無	レトロウイルス	Cell Transplant 2005; 14: 749-756	ランゲルハンス島移植のために使われるAN69中空ファイバー膜がブタ内因性レトロウイルス(PERV)の移行を防ぎ、PERV感染リスクを減らすかを調べた。PERV源としてPK15細胞を用いた。ヒトU293細胞を、カプセル封入PK15細胞(第1群)、カプセル封入PK15上清濃縮(第2群)、またはPK15上清濃縮(対照群)とともにin vitroでインキュベートした。第2群ではヒト細胞は全く感染しなかった。第1群では11検体中10検体は感染しなかったが、1検体は感染した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
331	2006/11/22	60713	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体		有効成分	無	無	無			
332	2006/11/22	60714	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
333	2006/11/22	60715	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
334	2006/11/22	60716	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
335	2006/11/22	60717	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
336	2006/11/24	60718	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞		有効成分	無	無	無			
337	2006/11/24	60719	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	米国、カナダ、メキシコ	製造工程	無	無	無			
338	2006/11/24	60720	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	トリブシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
339	2006/11/24	60721	ZLBベリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
340	2006/11/27	60722	化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
341	2006/11/27	60723	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン処理人免疫グロブリンG分屑	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60722に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60722に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60722に同じ
342	2006/11/27	60724	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
343	2006/11/27	60725	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60722に同じ
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60722に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60722に同じ
344	2006/11/28	60726	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター 卵巢細胞	チャイニーズハムスター 卵巣	不明	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
345	2006/11/29	60727	東レ	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
346	2006/11/29	60728	東レ	インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
347	2006/11/29	60729	東レ	インターフェロン ベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー、ルクセンブルグ	添加物	無	無	無			
348	2006/11/29	60730	東レ	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
349	2006/11/29	60731	東レ	インターフェロン ベータ	トリブシン	ブタ脾臓抽出物	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
350	2006/11/29	60732	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	有	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
351	2006/11/29	60733	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
352	2006/11/29	60734	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	インターフェロン ガンマ-nl	ヒトミエロノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	有			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
353	2006/11/29	60735	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
354	2006/11/29	60736	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	抗IFN- γ モノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
355	2006/11/29	60737	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			
356	2006/12/01	60738	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	無			
357	2006/12/01	60739	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ヘミン	ウシ	米国及び製造時にBSE問題のない国	製造工程	無	無	無			
358	2006/12/01	60740	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
359	2006/12/01	60741	セローノ・ジャパン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
360	2006/12/01	60742	セローノ・ジャパン	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
361	2006/12/01	60743	セローノ・ジャパン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(34) 2006年8月24日	米国における水疱性口内炎: 報告日-2006年8月18日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、アウトブレイクの詳細-Wyoming州, Natrona郡の農場における1件(アウトブレイクの開始日2006年8月13日): ウマにおいて疑い例30例, 症例1例, ウシにおいて疑い例25例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(37) 2006年9月14日	米国における水疱性口内炎Follow-up report No.3: 今回報告終了日-2006年9月11日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、最後のfollow-up report報告以降、新規アウトブレイクは報告されていない。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.4: 今回報告終了日-2006年9月19日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州, Converse郡などの農場における3件(アウトブレイクの開始日2006年8月30日~2006年9月6日): ウマにおいて疑い例8例, 症例3例, ウシにおいて疑い例400例, 症例5例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(39) 2006年9月28日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.5: 今回報告終了日-2006年9月26日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州, Converse郡の農場(アウトブレイクの開始日2006年9月10日): ウシにおいて疑い例60例, 症例1例。
												炭疽	ProMED-mail20060615.1665	米国ミネソタ州Kittson郡のウシの群で、2006年6月10日~11日に、雌ウシ5頭および雄ウシ1頭が死亡しているのが発見された。血液サンプルが収集され、炭疽に陽性であったことが確定した。2006年6月15日現在、合計6例が死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060626.1775	米国North Dakota州Emmons郡においてウシ2例が炭疽で死亡した。同州において2006年で初の症例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060707.1868	米国Minnesota州で、2006年6月中旬にMinnesota Board of Animal Healthが2施設での炭疽による死亡を初めて報告してから、新たに9施設において家畜の死因として炭疽が確認された。この9施設で動物24例が死亡し、計31例の死亡となった。7施設はKittson郡にあり、ウマおよびバッドファローにおいて炭疽が確認された。残り2施設はWoods郡であり、Woods郡のLakeの家畜において初めて記録された炭疽による死亡である。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2057	米国Texas州で、Val Verde郡のシカ、およびCrockett郡のウシにおいて炭疽が確定された。
												炭疽	ProMED-mail20060724.2044	米国South Dakota州の家畜に再び炭疽が発生している。Hyde郡のワクチン接種を受けていないウシの集団(最初に死亡した5例を含む約100例)における炭疽が報告され、2006年7月24日に州獣医診断研究所は診断を確定した。
												炭疽	ProMED-mail20060721.2010	米国Minnesota州は87年間で最悪の家畜の炭疽のアウトブレイクに取り組んでいる。2006年6月中旬から、Minnesota州北西部の23の農場において、家畜68頭が死亡した。死亡した家畜の多くはウシであったが、バイソン5例およびウマ6例も死亡した。この最近のアウトブレイクはKittson, Roseau, Red LakeおよびLake of the Woods郡に限定されている。カナダも炭疽のアウトブレイクを報告している。
												炭疽	ProMED-mail20060817.2300	米国South Dakota州のウシの群において、2006年で2例目の炭疽症例が確認されたLincoln郡において最近炭疽が発見され、ワクチン未接種の51頭のウシの群の3頭が死亡した。2005年に500例を超えるウシ、バイソン、シカがSouth Dakotaで炭疽により死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060811.2256	米国Minnesota州で、炭疽による死亡が確認された施設がさらに2つ追加された。これらはMarshall郡およびPolk郡にある。炭疽が原因の死亡の最新報告は2006年7月25日の肉牛における炭疽である。
												炭疽	ProMED-mail20060921.2699	米国Texas州で、2006年9月18日に、Texas Department of Health Servicesは獣医公衆衛生担当官らに、Texas Veterinary Medical Diagnostic Laboratory (TVMFL)によりKinney郡の4才のウシで炭疽の診断が確定されたことについて注意喚起を行った。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060706.1858	Canadian Food Inspection Agency (CFIA) は、最近10日間で炭疽が疑われるウシの死亡76頭を報告した。検査で3例が陽性症例と確定された。洪水で土壌の細菌に暴露したことが炭疽のアウトブレイクの原因と考えられる。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2059	カナダChaplin地域の農場においてウシ3例が炭疽で死亡しているとCanadian Food Inspection Agencyが2006年7月21日に述べた。この夏、炭疽はSaskatchewanで既に発生しており、7月21日現在50の農場で216頭の動物が死亡している。
												炭疽	ProMED-mail20060912.2581	カナダSaskatchewanで動物の炭疽による死亡は779頭に達した(先週53頭が死亡)。先週5つの牧場施設における感染が新たに報告された。
												炭疽	ProMED-mail20060916.2635	カナダSaskatchewanにおいて153施設で炭疽が確認された。これら施設における動物(ウシ, ウマ, ブタ, ヒツジ, バイソン, シカ, ヤギ)の死亡は783件である。Manitobaにおいては変更ない。
												BSE	ProMED-mail20060617.1680	Canadian Food Inspection Agencyは、2006年4月16日に確認されたBritish Columbia州のウシにおけるBSE症例についての調査を終了した。特定の感染源は発見されていないが、調査員らは、種々の原料を運んだり、受け取った乗り物および道具がBSEの病原因子によりウシの飼料を汚染した可能性があると決定した。この症例とカナダにおける4例目のBSEの動物への飼料の原料供給業者が共通していることも確認された。
												BSE	ProMED-mail20060706.1855	カナダManitobaの食用の成牛1例において最終検査結果によりBSEが確定され、Canadian Food Inspection Agencyは包括的な調査を実施している。
												BSE	ProMED-mail20060714.1937	カナダAlberta州の50月令の乳牛がBSEであることが確定された(カナダで7例目)。このウシは7月10日に予備検査に基づいて初めて報告された。このウシは焼却処分され、ヒトまたは動物の食物連鎖に含まれていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED-mail20060825.2413	Canadian Food Inspection Agency (CFIA)は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月令の乳牛に関する疫学的調査の結論を出した。このウシの死骸はヒトまたは動物の食物(飼料)系に入っていない。禁止された物質によりウシの飼料1バッチが汚染された可能性のある事例が1軒の飼料販売店で記録されており、このバッチの飼料全てがBSE陽性のウシの農場へ送られた。この飼料が最も可能性の高い感染源である。
												BSE	ProMED-mail20060823.2384	2006年8月23日、カナダで、Alberta州の肉用の雌牛がBSEであることがCanadian Food Inspection Agency (CFIA)により確定された。オーナーなどにより提供された予備情報によると、この動物の年齢は8から10才であり、飼料に関する禁止令導入前または実施早期にBSE因子に暴露した可能性がある。
362	2006/12/01	60744	セローノ・ジャパン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年6月16日	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update12) : 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国19例目のヒト感染症例を確認した。患者はGuangdong省Shenzhen市の31才の男性で、6月3日に発症した。感染源についての調査が実施されており、予備的報告では、症例は発症前に、生きた家禽が売られている地域の市場を訪れたことが示された。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式に報告されていない。現在までに報告された中国における検査確認された19例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060713.1934	中国のGuangdong省における最も最近のトリインフルエンザのヒト症例は回復の徴候を示している。この症例との密接な接触者98例において、疑われる症状(肺炎またはトリインフルエンザ様症状)は確認されていない。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060804.2158	中国のGuangdong省における、最近のトリインフルエンザ患者(Shenzhenの31才トラック運転手)が2006年8月2日に退院したと地元保健当局が発表した。この患者は中国で回復したトリインフルエンザ患者の中で、最も重症であった。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060622.1729	2003年11月(中国がWHOにヒト感染について報告した2年前)に中国本土でトリインフルエンザにより男性が死亡したことを、Beijingの科学者らが2006年6月22日に発行予定の医学雑誌(New England Journal of Medicine)で述べた。男性の死亡は当初SARSが原因であると考えられた。このことは、SARSによると考えられた他の症例も実際にはH5N1トリインフルエンザによる死亡だった可能性を示唆する。